

主題	褥瘡により失われる笑顔		
副題	チームプレイで痛みのない豊かな生活を		
褥瘡ケア		他職種連携	
研究期間	3ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム ゆたか苑
発表者：縄田 晃一（なわた こういち）		アドバイザー：西澤 徳子（にしざわ のりこ）	
共同研究者：長嶋 裕子（ながしま ひろこ）		看護師 野津 真千子（のづ まちこ）	
電話	03-3959-2129	メール	yutaka - c@douen.jp
FAX	03-3959-2149	URL	http://blog.yutakaen.net/

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会が設立母体であるゆたか苑は平成8年4月、豊島区长崎の閑静な住宅街の一角に開設されました。50床の特別養護老人ホームで現在4床のショートステイを併設しています。その他居宅介護支援事業では2名のケアマネジャーが地域で活躍しています。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

当研究を実施する以前はご利用者の「皮ムケ」を「褥瘡」として捉える職員が多くありませんでした。また、褥瘡の既往歴、栄養面などから褥瘡のリスクのあるご利用者の経過観察・他職種への情報伝達が不十分であるという問題点がありました。かつては排泄ケアの際に全ご利用者が同じ時間帯に一斉にケアを受けるという画一的なものであり、2年前より個別排泄ケアに移行しましたが、さらなる個別化が必要だと考えました。職員の褥瘡に対する知識不足（褥瘡の発生原因やメカニズム）や意識の低下などから褥瘡を繰り返してしまうご利用者が昨年は全ご利用者様50名中7名おりました。

<課題>

- ①職員一人一人の褥瘡ケアに対する意識の低下と知識不足
- ②他職種との連携不足と情報共有の仕組み作り
- ③排泄ケアのさらなる個別化

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

この取り組みを行うことで職員の意識・知識の向上と情報伝達方法の改善を図り、他職種全体で協力して褥瘡をなくすことを目的としました。そしてご利用者の痛みを取り除くと共にご利用者様個々に合ったケアを行い、元気で笑顔のある生活を送って頂きたいと考えました。

- ① 褥瘡チェック表によって全職員が褥瘡のあるご利用者の経過を把握して、安定したケアと情報共有を行えるのではないかと
- ② 医務・リハビリ・栄養士による施設内研修により他職種から見た褥瘡ケアに対する見解や知識を全員で共有して職員の知識と意識の向上が狙えるのではないかと
- ③ 画一的なケアではなくご利用者様によって排泄介助の回数や時間の変更、肌を保護し、保湿効果のある石鹸を使用した陰部洗浄をすることで、清潔保持に繋がりを、新たな褥瘡を予防できるのではないかと

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 褥瘡者に対して褥瘡チェック表作成
→現在臀部に皮ムケのあるご利用者様3名を対象に傷の経過、処置方法、処置時間を誰が見ても分かる様に表にして、約2週間経過観察を行いました。
- ② 他職種による施設内研修を開催する
→医務・リハビリ・栄養士の各視点から褥瘡に対する理解を深める為に各職種より施設内研修を行いました。
- ③ 個別のケア充実（全利用者様対象）
→全員が同じ時間に排泄ケアを受けるという画一的な排泄ケアをやめて、尿量や尿意に合わせて排泄ケアの回数を増やす、石鹸を使用した陰部洗浄などを行いました。また、体位交換のチェックを実施し臀部の負担軽減を図りました。

《4. 取り組みの結果と考察》

- ① 褥瘡チェック対象ご利用者様3名は日を追うごとに褥瘡の改善が見られ、職員からも「過去と現在の褥瘡の状態を比較できた」等の意見が聞かれました。
- ② 他職種による施設内研修では職員一人一人が褥瘡の知識を再認識し、参加した職員からは「日頃からのケアや環境作りが大切だと気付いた」「褥瘡者の気持ちを理解できた」といった意見が聞かれ日常のケアの質の向上に繋がったと考えています。十分な褥瘡ケアを行うには、まず職員の意識改革が必要であり、今回の研修がその第一歩となったと思います。
- ③ 排泄ケアの回数を増やす、肌保護と保湿効果のある石鹸を使用した陰部洗浄、体位交換のチェックなど個別ケアを充実させて、新たな褥瘡の発生の予防に繋がりました。
以上の点から褥瘡ケアにおいて重要なことは、職員一人一人の意識向上と褥瘡の経過を全職員がしっかりと把握できるシステム作り、排泄ケアの個別化だと気がつきました。

《5. まとめ、結論》

他職種が連携することで各職種だけでは補えなかった知識や技術を持ち寄り課題を一つ一つ解決することが、ご利用者様の想いに働きかける相乗効果を生み出す事ができると気付きました。こうした職員の意識改革が新たな褥瘡予防に繋がりを、そして個別ケアの充実と他職種との連携により褥瘡だけに限らず、全職員のチームプレイでご利用者様の生活をより豊かで笑顔溢れるものに変えていきたいと思えます。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究を行うにあたり、ご本人が特定できない様に仮名を使用しています。

《7. 参考文献》

- 『褥瘡予防・管理ガイドライン』
編集 日本褥瘡学会（2009年2月）
出版 照林社
『褥瘡の予防 クイックリファレンスガイド』
著 ヨーロッパ褥瘡諮問委員会 米国褥瘡諮問委員会（2009年）
監訳 宮地良樹 真田弘美
出版 ケープ

《8. 提案と発信》

介護は「実践の科学」と言われています。ケアの根拠を全員で理解し、根拠に基づいた介護を行い、実践します。そんな当たり前の事を新人職員・ベテラン問わず実践し、ご利用者様の元気な姿を見る事が出来ればこれほどやりがいのある仕事はないと思えます。職種の壁を越えてお互いに学び連携し合いながらチームワークを活かした環境作りが介護では重要だと考えています。

【メモ欄】